

ヒラツメガニ（八の字）にみられた鋏脚の奇形



ヒラツメガニ（学名；*Ovalipes punctatus*）は、秋田県では通称「八の字」と呼ばれ、食用として出回っている小型のカニです。「八の字」の名の通り、甲には漢数字の「八」に似た模様を持つのが特徴です。

本種は北海道から沖縄県にかけての浅場の砂泥底に広く分布します。

2010年5月18日、男鹿市五里合の漁業者が刺し網(水深10m)で奇妙な鋏を持つ個体を漁獲したと、水産振興センターに連絡が入りました。

鋏は通常、左右対称ですが、この個体では右鋏の下部にだけもう一つの「鋏」がついているように見えます。ただし、この「余計な鋏」には関節がなく、動かすことはできません。

これと同じような鋏の奇形は、ケガニ、ズワイガニ、ヤマトオサガニ、オオエンコウガニといった他のカニ類やアメリカザリガニでも報告されています。

アメリカザリガニでこの奇形が生じる原因を調べた報告では、鋏に何らかの傷を負った場合、傷口には次の脱皮から過剰な再生による突起ができ、その突起が脱皮のたびに大きくなって鋏の形になるようです。

この「八の字」も、自然界を生き抜く間に、仲間とのケンカや外敵からの攻撃などで鋏に傷を負ったのでしょう。

蛇足ですが、このようなカニでも食品としての問題は全くないのでご心配なく。

